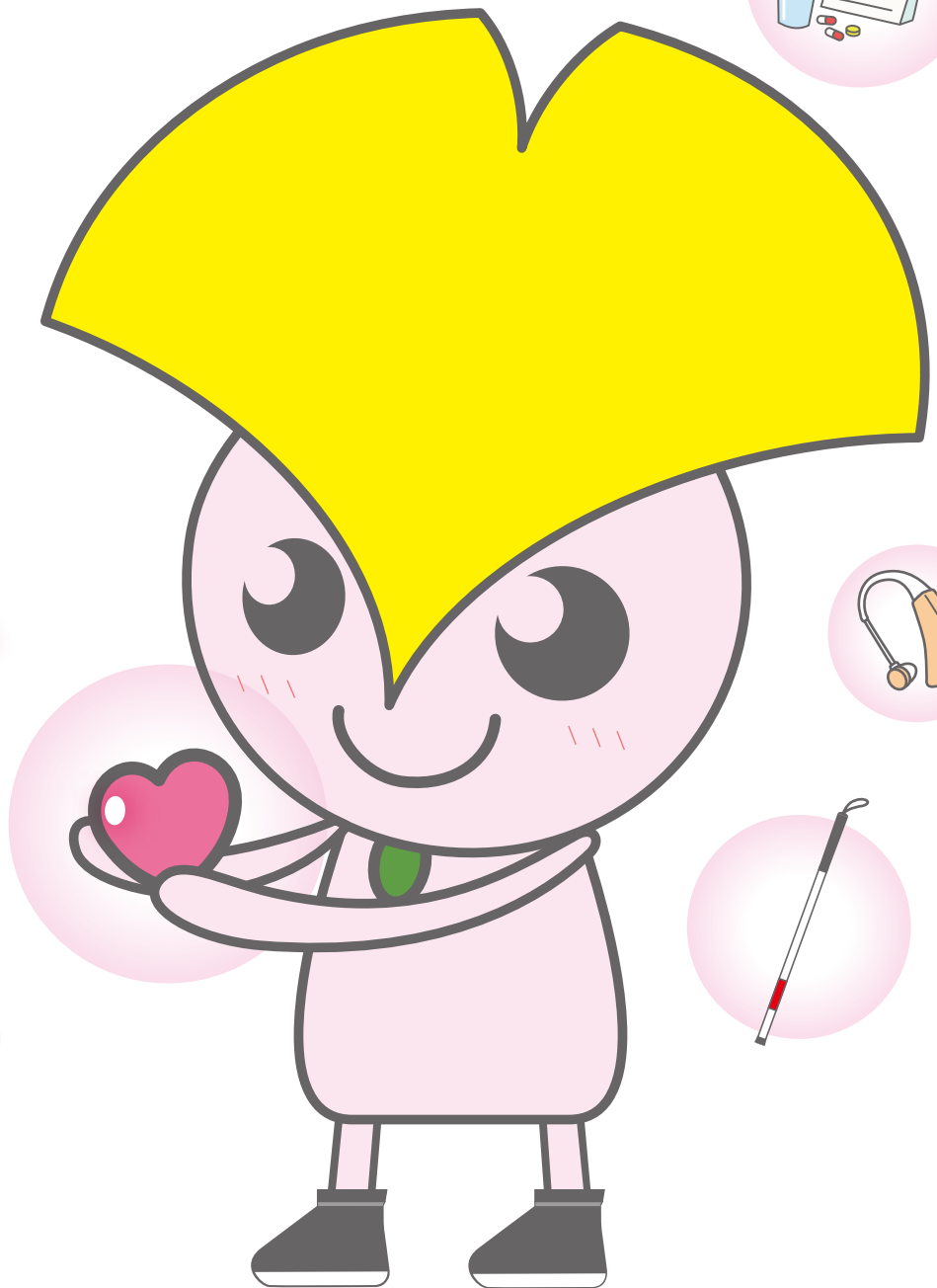
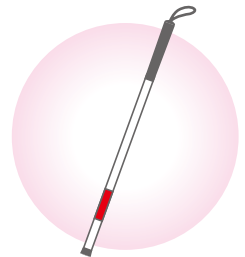


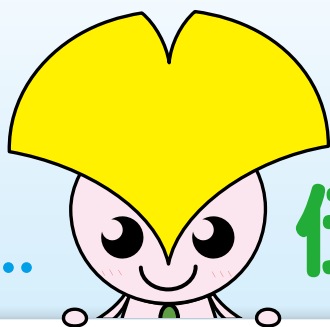
シャッピーから伝えたいこと やさしい気持ち

障がい^{しょうがい}を正しく知^しって
サポ^たートしましょう



社会福祉法人
泉佐野市社会福祉協議会

シャッピーから みんなへ...



伝えたいこと

はじめまして。

わたしは、いちょうの妖精「シャッピー」です。泉佐野市上町1丁目のイチョウの木からうまれました。
泉佐野市社会福祉協議会で地域福祉のお仕事を手伝っています。

わたしは、みんなの笑顔と優しい気持ちが大好きです。泉佐野市のみんなと友だちになっていろんな
ところで役に立ちたいと思っています。

そんなわたしの住むまちに、障がいのことをみんなにわかってほしいなあ～いっしょに遊んでおしゃべり
したいなあ～って思う人たちがいます。シャッピーといっしょに学んでみ～んなハッピーになろうね。

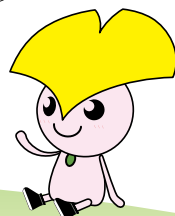
泉佐野市社会福祉協議会



1. 障がいについて学ぼう..... 3
2. まちに出てみよう..... 6
3. いっしょに考えよう <災害・緊急のときは> ... 8
4. 福祉のお仕事..... 9
5. 改正障害者基本法..... 10
6. 「障がい」について学ぶことの大切さ 11
マークを知ろう



シャッピークイズだよ!
①～⑩、コレな～んだ?



こたえは最後のページだよ

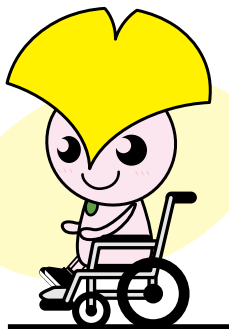
障がいについて学ぼう



みなさんのまわりに、車いすで移動している人や、杖を利用している人、介助犬と歩いている人や、騒がしい音や人がたくさん集まる所が苦手な人、自分の思っていることを言葉にできない人がいます。

障がいは、決して特別なことではありません。だれもが得意なこと、得意じゃないこと、できること、苦手なことがあるということについて考え、学んでみましょう。

肢体不自由



体に「障がい」がある人

手や足や体が動きにくい人や、動かせない人がいます。自分の力と、杖や車いすなどを使って移動します。

障がいのある人の生活や気持ちを知ろう

- 歩道橋や長い階段、デコボコのある道の移動は大変です。
- 車いすに座って高いところのものを取ることや、拾ったりすることが大変です。
- 体が動きにくいので、文字を書くことやおしゃべりすることがむずかしいです。
- 首のけがなどで、両手足を自由に動かすことや体温の調節が大変です。

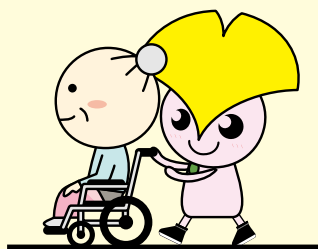
車いすのそれぞれの名前



- ①ハンドグリップ ②背もたれ ③ひじ当て
④シート ⑤ブレーキ（ストッパー）
⑥足置き（フットレスト） ⑦前輪（キャスター）
⑧後輪 ⑨ハンドリム（車輪を回すハンドル）
⑩ティップングレバー（前輪昇降用）

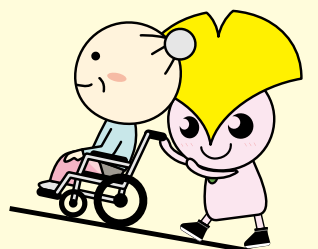
車いすの使い方

押しはじめ（スタート）

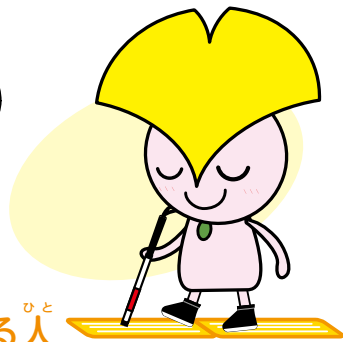


押しはじめる前に足が⑥足置き（フットレスト）にのっているか確認します。
押しはじめるときは、「進みます」「押します」など声をかけましょう。

ブレーキのかけ方



車いすを止めて、片方の手で①ハンドグリップを握ります。もう片方の手で⑤ブレーキ（ストッパー）をかけます。反対側も同じように⑤ブレーキ（ストッパー）をかけます。



目に「障がい」がある人

見えにくい人、見えない人、色がわかりにくい人がいます。
見え方には「形がゆがんで見える」「ぼやけて見える」などさまざまです。

耳に「障がい」がある人

聞こえない人、聞こえにくい人がいます。
生まれたときから聞こえない人は声を出すことが不自由です。

障がいのある人の生活や気持ちを知ろう

- 音を聞いたり手でさわったりして、たしかめます。
- なれていないところを一人で動くのは不安です。
- 文字は声をだして読んでもらうことや、点字などで読みます。
- 周りの様子をたしかめることや、自分から助けを求めることがむずかしいです。

障がいのある人の生活や気持ちを知ろう

- 目で見て、まわりの様子をたしかめます。
- 話せていても、聞かえていないことがあります。
- お知らせ音などで気づくことがむずかしいです。
- 話している口の動きや手話、メモを見て話すことができます。

かんたんな手話



わたし

ひとさし指で胸の中央をさす。



あいさつ

むかいあわせたひとさし指をいっしょにまげる。



げんき

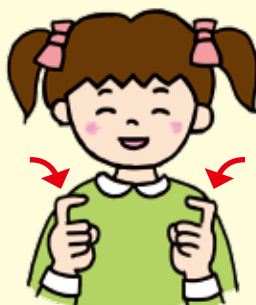
したむむ下に向けたこぶしを力強く2回おろす。



①



①



②

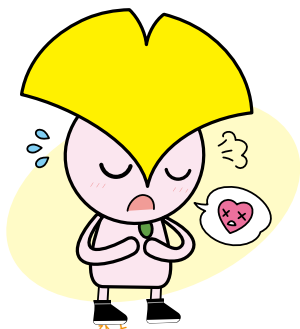
こんにちは

- ①ひとさし指と中指をたてておでこの中央にあてる(時計の12時を表す)
- ②その後にあいさつの手話をする。



①

内部障がい



体の中に「障がい」のある人や 治りにくい病気の人

体の中のはたらきがうまくいかない人、ちりょうがむずかしい病気の人です。とても疲れやすく、「障がい」が、見た目
でわかってもらえないので困ることがあります。

障がいのある人の生活や気持ちを知ろう

- 体の中の障がいなので、見た目ではわかりにくいことがあります。
- 疲れやすいです。
- 電車やバスのゆずりあい座席や多目的トイレを利用します。

知的障がい



読むことや書くこと、 計算することがむずかしい人

障がいのある人の生活や気持ちを知ろう

- 見た目や少し話をしただけでは、障がいがあることがわかりません。
- 漢字の読み書きや計算が苦手です。
- 自分の考えや気持ちを伝えるのが苦手です。

発達障がい



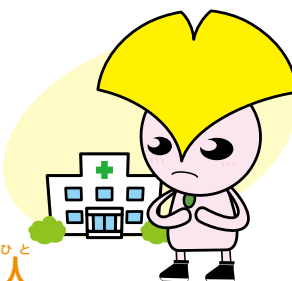
気持ちや考えをうまく伝えられない人

大きな音や急に声をかけられることが苦手です。長い
時間じっとしていると不安になります。相手の気持ち
や、まわりのできごとを知ることに関心があります。

障がいのある人の生活や気持ちを知ろう

- 時間がたてば、気持ちがおちついてきます。
- ゆっくり、くりかえし教えてもらえると助かります。
- 「困っている」と伝えることが苦手です。

精神障がい



こころの病気がある人

いつもの生活がしんどくなるので、専門の病院で
りようします。

障がいのある人の生活や気持ちを知ろう

- 見た目からはわかりにくいです。
- 疲れやすくなります。
- 病気とわかってほしいです。

ありがとう

- ① 左手の甲の上に右手を直角に当てる。
- ② 右手をそのまま上に上げる。

②

こんばんは

- ① 手のひらを前にむけ顔の前で交差する（目の前が暗くなる様子）
- ② その後にあいさつの手話をする。

②

まちに出^でてみよう



おうだん ほ どう

横断歩道などで



視覚障^{しかくしょう}がいの人^{ひと}は、信号^{しんごう}がかわったこと^{こと}に気づきにくい^きです。「信号^{しんごう}が青^{あお}になりましたよ」などと声^{こえ}をかけてから一緒^{いっしょ}にわたりましょう。

体^{からだ}が不自由^{ふじゆう}な人^{ひと}でわたるのに時間^{じかん}がかかる人^{ひと}もいます。

かいだん

階段などで



車^{くるま}いすの人^{ひと}の階段^{かいだん}の上^{のぼ}り下^おりを手伝^{てつだ}う場合^{ばあい}は、周り^{まわ}の人^{ひと}に協力^{きょうりやく}をしてもらいましょう。自分^{じぶん}一人^{ひとり}で無理^{むり}をすれば、相手^{あいて}も不安^{ふあん}になり危険^{きけん}です。

てんじ

ちゅうい

点字ブロックに注意して



点字ブロックは「視覚障^{しかくしょう}がい者誘導用^{しゃゆうどうよう}ブロック」といいます。視覚障^{しかくしょう}がいのある人^{ひと}が一人^{ひとり}で歩くための目印^{めじるし}です。その上^{うえ}に自転車^{じてんしゃ}などが置いてあると進めなくなってしまうです。また、点字ブロックの上^{うえ}で立ち話^たなどをしていいると視覚障^{しかくしょう}がいの人^{ひと}がある人^{ある}の邪魔^{じゃま}してしまうので注意^{ちゅうい}しましょう。

ゆうせん ざ せき ふ きん

優先座席付近では



電車^{でんしゃ}やバス^{しゃりょう}の車両^{ゆうせんざせき}には優先座席^{ゆうせんざせき}があります。体^{からだ}の中^{なか}に障^{しょう}がいのある人^{ひと}も利用^{りよう}しています。携帯電話^{けいたいでんわ}の電源^{でんげん}は切り^きりましょう。

くるま

車いすスペースとは



多く^{おほ}の電車^{でんしゃ}やバス^{しゃりょう}の車両^{くるま}には、車いす^{りよう}で利用^{ひと}する人のためのスペース^{スペース}があります。車いす^{くるま}の人^{ひと}が乗車^{じょうしゃ}してきたら、その場所^{ばしょ}を空^あけましょう。

多目的トイレとは



車イスの人が使える広さや手すり、汚れた物を洗う流しや子どものおむつ替えベッドなどがあり、障がいの人だけでなくいろいろな人が使えるトイレです。他のトイレを使える人は、多目的トイレが必要な人のために、長い時間使うことはやめましょう。

障がい者等用駐車スペース



多くの駐車場には、幅の広い「障害者等用駐車スペース」があります。これは車いすの人や、杖を使っている人などが乗り降りするのに必要な幅がある駐車スペースです。必要のない人は利用しないようにしましょう。

身体障害者補助犬（補助犬）



補助犬はペットではありません。身体障害者補助犬（補助犬）には、「盲導犬」、「聴導犬」、「介助犬」がいます。特別な訓練を受けた犬で、体の不自由な人のために働いています。市役所、図書館、学校、駅、空港、レストラン、スーパー、ホテルなどいろいろな場所に、補助犬を連れて一緒に入ることが認められています。



盲導犬

目の不自由な人と歩き、交差点や段差で止まったり、障害物や車が近づいていることを知らせ、安全に歩けるよう助けてくれます。白または黄色の「ハーネス（胴輪）」をつけています。



聴導犬

耳の不自由な人に、ブザー音やFAXなどが鳴ったことを知らせてくれます。出かける時は「聴導犬」と書かれた胴着をつけています。



介助犬

手や足が不自由な人の代わりに、落とし物やものを拾ったり、ドアの開け閉めなどを助けてくれます。出かける時は「介助犬」と書かれた胴着をつけています。

いっしょに考えよう



さいがい きんきゅう
災害・緊急のときは

大きな地震や台風が発生すると、たくさんの方が被害を受けます。ときには命が失われることもあります。特に障がいのある人たちは、いざというときに自分一人で判断したり、すばやく行動することが難しい場合が多いので、より大きな被害を受けることがあります。そのような障がいのある人たちが災害から身を守るためには、本人の準備だけではなく、家族や地域に住む人たちの助けが必要です。わたしたちのまちで、みんなが安心して暮らせるように、防災についての知識や災害時の支援についてみんなで話し合ひましょう。



ひ かぞく がっこう なに ひつよう はな あ
日ごろから家族や学校で何が必要なのか話し合ひましょう

さいがい きんきゅう じ
災害や緊急時の
ひなんばしょ
避難場所

ひじょうもちだしひん
非常持出品
ばしょ
の場所

警報や避難のアナウンス

みみ ふじゆう ひと さいがい じ きんきゅう じ なが けいほう
耳の不自由な人は、災害時や緊急時に流される警報やアナウンスを聞くことができません。書きながら話したり、口の動きなどで今の状況やこれからどうするのか、避難方法などの情報が必要です。

周りの状況が見えない

め ふじゆう ひと さいがい じ きんきゅう じ なが けいほう
目が不自由な人は、災害時や緊急時に流される警報やアナウンスを聞くことはできても、周りの状況を自分の目で確認することはできません。相手の目となって、周りの状況や非常口の位置などを確認して知らせることが必要です。

一緒に行動する

さいがい じ きんきゅう じ しょう ひと ひとり こうどう
災害時や緊急時、障がいのある人が一人で行動するのは普段よりも難しいことが多くなります。避難するときなどは、家族や支援者とはぐれないように行動しましょう。

周囲の協力を求める

さいがい じ くるま ひと じ ぶん ちから ひじょうかいだん お
災害時など車いすの人は自分の力で非常階段を下りることができません。また、ひとりのサポートでも難しいです。無理せず周りに協力してもらい、何人かの人にサポートしてもらいましょう。

非常持出品のなかみ

- ☐ 貴重品
げんきん こせに よちきんつうちよう いん けんこうほけんしやう めんきしやう
(現金・小銭、預貯金 通帳、印かん、健康保険証、免許証 など)
- ☐ 懐中電灯 (予備の電池)
かいちゅうでんとう よび でんち
- ☐ 携帯ラジオ (予備の電池)
けいたい でんわ よび でんち
- ☐ 携帯電話 (スマートフォン)
けいたい でんわ
- ☐ 救急医 薬品
きゅうきゅういやくひん
(消毒薬、鎮痛薬、体温計、ばんそうこう、持病のある人は常備薬など)
- ☐ 水・非常食
みず ひじょうしょく
(ペットボトル入りの飲料水、乾パン、缶詰、チョコレートなど)

ひ じょうもち だし ひん
さんの非常持出品

(自分に必要なものを考えてみよう)



GUIDE

4

ふく ごと
福祉のお仕事

わたしたちの地域は、年齢や障がいがあるかないかに関係なく、すべての人が安心して暮らすことができるように、さまざまなしくみがつくられ、たくさんの人たちにささえられています。

か てい せい かつ し ごと
家庭で生活をささえる仕事

障がいがあっても、すみ慣れた家庭でずっとくらしていけるように、お手伝いをするしくみがあります。

・ホームヘルプサービス

訪問介護員 (ホームヘルパー) が障がいのある人の家庭を訪問し、入浴や身のまわりのお手伝いをします。また、買い物や家事などのお手伝いもします。

そう だん えん じょ お こな
相談や援助を行うところ

- ・社会福祉協議会
- ・市役所の福祉担当課
- ・児童相談所

ふく し し せつ せい かつ し ごと
福祉施設での生活をささえる仕事

福祉施設では、さまざまな理由で家庭では生活できない人がくらしています。保育士や介護福祉士、社会福祉士などの職員が生活や訓練のお手伝いをします。

ち い き し えん ひ と び と
地域で支援する人々

・民生委員・児童委員

それぞれの地域で、生活のことで困っている人たちの相談にのり、市役所などと協力して必要な支援を行います。

・主任児童委員

子育てのことや仲間づくり、いじめや不登校、児童虐待など地域の子どものための安心、安全のための支援を行います。

改正障害者基本法

わかりやすい版



第1条 目的（目指すこと）

この法律は、すべての人が人権を持っているという考え方に基づいて、障がいがあってもなくても分けられず、一人ひとりを大切にする社会（次からは「共生社会」といいます）をつくるために、自立や社会参加を支援する法律や制度をよりよいものにしたり、つくったりすることを目指します。

第2条 定義（この法律で使われている言葉の意味）

障がいのある人とは、身体障がいや知的障がいのある人や、発達障がいを含めた精神障がいのある人、その他の障がいのある人で、障がいや社会的障壁（社会のかべ）によって、暮らしにくく、生きにくい状態が続いている人をいいます。
社会的障壁（社会のかべ）とは、障がいのある人を暮らしにくく、生きにくくする社会にあるもの全部です。

第3条 地域社会における共生等（みんなで一緒にまじで暮らすこと）〈基本原則1〉

共生社会をつくるために、つぎのことを目指します。大事なことは、障がいのある人が障がいのない人と同じ人権をもって、大切な人として認められ、人間らしく暮らし、生きる権利があることです。

○障がいのある人みんなが、社会のすべての場面に参加できるようにすること

○障がいのある人みんなが、どこで誰と暮らすのか自分で選ぶことができ、地域でみんなと一緒に暮らせるようにすること

○障がいのある人みんなが、手話などのことばや必要なコミュニケーション（気持ちを伝えること）の方法（点字、指文字、触手話、要約筆記、筆談、わかりやすいことば）を選ぶことができるようにすること。また、情報を手に入れたり、使ったりする方法を選ぶようにすること

第4条 差別の禁止（差別をなくすこと）〈基本原則2〉

障がいがあるからという理由で障がいのある人を差別してはいけません。差別など、障がいのある人の権利を認めないようなことをしてはいけません。

社会的障壁（社会のかべ）のために困っている障がいのある人がいて、その障壁をなくすための負担が大きすぎないときは、差別をすることにならないように、その障壁をなくすために必要で理由のある対応（合理的な配慮）をしなければなりません。

国は、差別とは何かをみんなに伝え、差別をなくすために必要な情報を集め、整理し、ほしい人の手に入るようにしなければなりません。

内閣府 障がい者制度改革推進会議 改正障害者基本法＜わかりやすい版＞（平成23年12月発行）一部抜粋



「障がい」について学ぶことの大切さ

桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科

教授 松端 克文

「障がい者」って聞くと、なんだかわたしとは違う「特別」な人というように感じる人がいるかもしれません。

確かに多くの人は自分の足で歩いているので、車いすを用いている人はその意味では「特別」な人かもしれません。また、わたしたちは言葉を声にだし、耳で聞き、文字を読むことでコミュニケーションをとっていますので、手話や点字でコミュニケーションをとることには慣れていません。

でも、自分の足で歩くことが「普通」かといえば、そうともいいきれません。たとえば、今日の社会では65歳以上の高齢者の割合は、4人に1人以上になっています。そして、これからますます高齢化が進みますので、車いすや杖を使って歩行する人はどんどん増えてきます。だから近い将来、車いすでまちを行き来する人が「普通」になっているかもしれません。また、高齢になれば音が聞こえにくくなりますので、補聴器を使う人も増えてきます。このように高齢社会が進展すると、なんらかの「障がい」がある人の方が、そうでない人よりも増えてくるかもしれません。このように考えると、いま「普通」だと思っていることが、本当にそうなのかあやしくなってきます。

それに障がいはとても多様です。身体の障がいだけでなく、知的障がいとか、発達障がいとか、精神障がいというように、見た目ではわかりにくい障がいもあります。たとえば、こうした障がいがあるために、計算が不得意だとか、人とお話するのが苦手とか、集団になじみにくいかといった人がいます。でも、こういうことって、障がいがある・なしにかかわらず、大なり小なり、わたしたちだれにでもあることだといえます。

自分のことをより深く考えてみると、人と似ているところもありますが、けっこう人と違うところもたくさんあります。その意味では、このわたしは他の誰でもない「特別」な存在です。障がいがあるから「特別」だというわけではなくて、わたし一人ひとりが、かけがえのない「特別」な存在なのです。

実は「障がい」について学ぶということは、一人ひとりが「特別」で、かけがえのない存在であるわたしたちが、より生活しやすい社会にしていこうための考え方や方法を学ぶことでもあります。

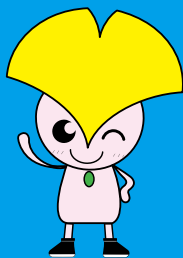
何が「普通」で、何が「特別」なのでしょう？

障がいのある・なしにかかわらず、ごく「普通」の生活ができる社会にしていこうことを目指さないといけませんが、それは「特別」な存在であるわたしが「普通」に縛られることなく、いきいきと生きていける社会でもあります。

「障がい」について学ぶことで、こうしたことを一緒に考えていきたいですね。



マークを知ろう



まちの中や建物などで見かける障がいにかかわるマークには次のようなものがあります。

しょう しゃ こくさい 障がい者のための国際 シンボルマーク



しょう しゃ こくさい
障がいのある人が利用できる建物
や乗り物であることを表す世界
共通のシンボルマークです。

もうじん こくさい 盲人のための国際 シンボルマーク



しかくしょう
視覚障がいを表す世界共通
のシンボルマークです。

ちょうかくしょう しゃ こくさい 聴覚障がい者のための国際 シンボルマーク



ちょうかくしょう
聴覚障がいを表す世界共通
のシンボルマークです。

みみ 耳マーク



き
聞こえが不自由なことを表す国内
で使われているマークです。聴覚障
がいのある人は見た目ではわかり
にくいので、自分の耳が不自由な
ことを伝えるために考えられました。

けん ほじょ犬マーク



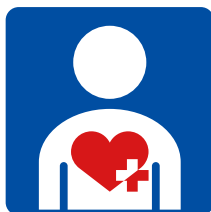
ほじょけん
補助犬（「盲導犬」、「聴導犬」、「介助
犬」）が市役所、図書館、学校、駅、
空港、レストラン、スーパー、ホテル
などいろいろな場所に一緒に入れる
ことを知ってもらうためのマークです。

オストメイトマーク



じんこうこうもん じんこうぼうこう しょう
人工肛門・人口膀胱を使用してい
る人（オストメイト）のための設備
があることを表すマークです。オ
ストメイト対応のトイレの入口など
に表示されています。

ハート・プラスマーク



ないぶしょう
内部障がいのある人を表す
マークです。

— 発行 —

社会福祉法人 泉佐野市社会福祉協議会

— 問合せ —

社会福祉法人 泉佐野市社会福祉協議会

泉佐野市・田尻町基幹相談支援センター

あいと

〒598-0007

泉佐野市上町 1-2-9

市立社会福祉センター内

電話：072-464-3830

FAX：072-462-5400

【 シャッピークイズのこたえ 】

- ①義足（ぎそく） ②補聴器（ほちょうき） ③白杖（はくじょう） ④酸素ボンベ（さんそぼんべ） ⑤コミュニケーションツール ⑥介助犬（かいじょけん）
⑦電動車いす（でんどうくるまいす） ⑧くすり ⑨フラッチ ⑩ヘッドホン